

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年9月17日(2015.9.17)

【公開番号】特開2013-144099(P2013-144099A)

【公開日】平成25年7月25日(2013.7.25)

【年通号数】公開・登録公報2013-040

【出願番号】特願2012-231931(P2012-231931)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/055 (2006.01)

G 0 1 R 33/3815 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/05 3 6 0

G 0 1 N 24/06 5 1 0 D

【手続補正書】

【提出日】平成27年7月30日(2015.7.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

入力部 7 は、操作卓上にスイッチやキーボード、マウスなどの各種入力デバイスや表示パネルを備えており、被検体情報の入力、MR 信号の収集条件や画像データの表示条件の設定、寝台 4 の移動指示信号や撮影開始コマンド信号等の入力を行う。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 9】

冷凍機 2 0 4 a , 2 0 4 b は、冷却容器 2 0 7 内部の超電導コイルユニット 2 0 8 上に配置される。例えば、図 3 に示すように、冷凍機 2 0 4 a , 2 0 4 b は、超電導コイルユニット 2 0 8 のボビン 2 0 8 b 上に配置される。そして、冷凍機 2 0 4 a , 2 0 4 b は、圧縮された冷媒ガス（ヘリウムガス及び窒素ガス等）を膨張させて冷熱を発生させてボビン 2 0 8 b を直接的に冷却することで、ボビン 2 0 8 b 上に配置された超電導コイル 2 0 8 a を冷却する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 1】

次いで、A - B 間を冷却するために、冷凍機 2 0 4 a に接続された熱伝導率の高い接続部 4 0 2 を用いて、A - B 間のヒータの熱を熱伝導により放出する。A - B 間が冷却されて超伝導状態になると、励磁用電源回路 3 0 1 を介して流れていた電流が A - B 間を流れる状態となり、永久電流モードとなる。永久電流モードになると、励磁用電源回路 3 0 1 から流している電流を遮断する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3】

前記複数の冷凍機は、前記超電導コイルユニットのボビン上に配置される請求項 1 又は 2 に記載の磁気共鳴イメージング装置。